

目次

- 1 「第10回 炉物理部会」総会報告 1
- 2 「第2回炉物理部会懇親会」報告 3
- 3 国際会議の案内 他 3

1 「第10回 炉物理部会」総会報告

第10回「炉物理部会」総会が、福井工業大学1・2号館で開催された「原子力学会1998年秋の大会」の第1日目(98/9/28)に開かれ、42名の会員が出席した。当日の主な議事、報告を以下にまとめる。

1-1 運営委員会からの報告

成田部会長より今年度第2回炉物理部会運営委員会について報告された。(詳細は部会ホームページの報告参照)特に、炉物理研究委員会と原子炉システム専門部会の現状に関する説明がなされ、更に原研中川氏より補足説明がされた。

1-2 今年度会計中間報告

工藤委員より資料(巻末表)に基づき、会計中間報告が行われ、了承された。

1-3 部会企画セッションについて

小林委員より、春の学会での部会セッションとして、会員の成果を蓄積し、広く役立てることを目的とした「共用炉物理コードシステムの構築」をテーマにパネルディスカッションすることが提案された。これに対し、会員から産業界でのこのコードシステムの位置付けや許認可使用への期待などの意見が出され、パネリストを更に検討するというので、来年度の企画セッションテーマとして了承された。

1-4 炉物理夏期セミナーについて

(1) 第30回夏期セミナー

川島委員より、第30回夏期セミナーが65名の参加を得て、終了した事が報告された。詳細については、部会ホームページや学会誌の報告記事を参照されたいとのことであった。

(2) 第31回夏期セミナー

成田部会長より、来年のセミナーは東海大学に依頼し、了承を得たと報告された。東海大阪元教授より、東海大学のセミナーハウス(山中湖畔または嬬恋村)にて行う事を考えており、来春の学会までに主なテーマ、場所等を検討して決めたいとの報告があった。内容等についての希望などを出していただきたいとのこと。

1-5 学会委員会からの報告

(1) 編集委員会から(原研 須崎編集委員)

炉物理分野での最近の欧文誌への投稿は順調であるが、和文誌での特集、トピックスが途切れがちである。折々のテーマを提案して欲しい。

本年は学会創立40周年に当たり、記念特集号の準備を進めている。30周年以降の10年のレビューと将来への展望を掲載予定でありご協力をお願いする。会場から、「これからの学会誌は原子力をめぐる社会的問題も重視すべきであり、従来の技術論偏重の姿勢を改められたい」との編集委員会に対する意見が出された。

(2) 企画委員会から(東芝 山本委員)

社会・環境部会新設へ。「学会全体が社会・環境問題に目をむけられるようにする」ことを目的にトップダウン的に新設を予定。次回99春の年会で関連研究発表セッション&企画セッションが設けられる。

学会創立40周年記念式典+原子力総合シンポジウム(基調テーマは地球環境とエネルギー戦略)を99/5/10・11、東大山上会館にて開催予定。

学会員増強ワーキンググループにより、現状の会員7000名から10000名(特定公益法人資格が獲得できる)へのキャンペーンとして以下の活動を行う。

- ・各機関への協力要請
 - ・論文連名者中の非会員への入会要請(今学会から)
- 草の根勧誘活動をよく。

部会企画の海外講演者招聘支援制度の改訂。必要ならば毎回申請可となった。

学生企画セッション新設。今学会より実施されている。学生会員は積極的に参加されたい。

主に大学関係者に、科研費の積極的応募を希望する。平成4年まで存在した分科「エネルギー学」中の細目「原子力学」が平成5年に消滅、以降採択件数が減少している。学会等の努力により平成11年から細目「原子力学」が復活したが、科研費内

の分科、細目設定は応募件数が大きく影響するので、件数を増やすようにしてほしい(応募が少ないとまた消滅する恐れがある)。

今後の学会開催予定地は、次の通り。

1999春： 広島大総合科学部

1999秋： 新潟工科大(柏崎)

2000春： 愛媛大

その他、学会の大会に関するプレスリリースについて検討している(今大会では企画委員長の独断で実施)、来春企画セッションはエントリー済みであること、等が報告された。

1-6 その他

(1)京大炉大学院実験について(京大 代谷氏)

KUCA維持費について

今年度は維持費2千万円がついた(ただし、これは今年限りの措置で、現在概算要求中である)。炉物理部会の支援に感謝する。 KUCA原子炉実験について

今年度より実験週を従来の2週間より3週間に拡充し、京大エネルギー科学研究科の院生が新たに加わった。受け入れは定員48名より60名に増加したが、最大72名の受入態勢で臨んでいる。今年度の参加学生数は57名(阪大10、九大9、北大・東北大・名大各7、東工大6、神商大5、武工大4、京大2)であった。

(2)会員からの要望

ホームページに討論の場をつくってほしい(例えば、先の部会企画セッションでの中性子寿命の議論など)との発言があった。

ホームページ上にBBSの設置が可能かどうか、ホームページ担当委員に検討をお願いする事にした。

2 「第2回炉物理部会懇親会」報告

春の年會に引き続き、秋の大会期間中の9月29日に、金井学園温泉総合健康増進センター3階において炉物理部会懇親會を開催いたしました。参加者数は、部会員30名、学生5名の総勢35名であり、始終にぎやかな懇親會とすることができました。さらに当日は、大学側のご配慮で温泉入浴も無料としていただき、懇親會終了後に入浴し、のんびりされた方もおられたようです。今後も引き続き楽しい懇親會を企画したいと考えておりますので、今回参加いただけなかった方も次の機会には是非ご参加ください。

3 国際會議の案内 他

3-1 International Conference on Mathematics and Computation, Reactor Physics and Environmental Analysis in Nuclear Applications (M & C'99 - MADRID, SPAIN)

開催日：1999年9月27日～30日

開催地：マドリード(スペイン)

本會議は、ANSが主催するトピカルミーティングのシリーズの一つで、2年ごとに米国、6年ごとに他国で開かれている。Paris(1987)、Knoxville(1989)、Pittsburgh(1991)、Karlsruhe(1993)、Portland(1995)、Saratoga(1997)に続いての開催である。

General Technical Sessions

- ・Application of 3-D Design Methods
- ・Artificial Intelligence and Neural Networks
- ・Computational Methods on Advanced Computers
- ・Deterministic Transport Theory Methods
- ・Stochastic Transport Theory Methods
- ・Reactor Dynamics
- ・Reactor Physics and Analysis
- ・Parallel and Distributed Computing
- ・Physics and Computational Methods for Advanced Reactor Concepts
- ・Real Time and On-line Analysis and Plant Simulation
- ・Validation of Reactor Analysis
- ・Computer Codes and Benchmarks (Poster Session)

Special Technical Sessions

- ・Advanced Computational Fluid Dynamics (P. Velarde)
- ・Advanced Materials Science Computations (M. Perlado)
- ・Advanced Methods for Reactor Calculations (in honor of Alain Kavenoky) (R. Sanchez)
- ・Computational Methods in Nuclear Waste Management (P. Elorza)
- ・Coupled Neutron-Proton Transport Methods at Intermediate Energies
- ・Coupled Reactor Physics and Thermal Hydraulics
- ・Monte-Carlo Depletion and 3-D Reactor Calculations (A. Hogenbirk)
- ・Non-Linear Computational Methods
- ・Particle and Radiation Transport for Bio-Medical Applications (R. Sanchez)
- ・Perturbation Theory and Variational Methods

・Transport and Diffusion Methods for Environmental Analysis

・Transport Methods for Ex-core Calculations.

Key Dates

・Submission of Full Papers : 15 March 1999

・Notification of Acceptance : 15 May 1999

・Submission of Revised Papers : 15 June 1999

・Deadline for Early Registration : 15 July 1999

・Deadline for Hotel Reservation : 15 July 1999

本会議に関する詳しい情報は、炉物理部会ホームページまたはM & C '99のホームページwww.din.upm.es/mc99をご覧ください。

3-2 部会ホームページ

部会のホームページを開設しています。このホームページには、原子力学会のホームページからもアクセスできます。炉物理部会の最新情報、活動報告、炉物理部会のデータベース、炉物理関係機関へのリンク集などを掲載しています。掲示板は、部会員同士の情報交換に利用できますので、是非ご活用ください。ホームページについてのご意見、ご要望等は、編集小委員(部会ホームページ担当)まで。

学会ホームページ: <http://www.soc.nacsis.ac.jp/aesj/>

編集小委員(部会ホームページ担当): 岩崎智彦

(E-mail: tomohiko.iwasaki@qse.tohoku.ac.jp, Tel: 022-217-7910, Fax: 022-217-7900)

3-3 編集小委員会からのお願い

編集小委員会では、部会報「炉物理の研究」、部会ニュースを充実させるため、記事等への会員の皆様のご意見、ご要望をお待ちしています。

「炉物理部会」

現275名

第10回会員総会

10.9.28(於: 福井工業大学)

平成10年度中間収支報告(10.4.1 ~ 10.9.16)

(単位: 円)

収入		備考
前年度繰越金	5,900,579	含古橋基金 1,882,597 . -
会費	86,500	-
第30回夏期セミナーテキスト残部売上	2,100	古橋基金へ繰入
合計	5,989,179	含古橋基金 1,884,697 . -

支出		備考
通信費	107,832	会費、他発送費
「会報」印刷費	168,630	第47号280部
「ニュースレター」印刷費	17,892	Vol. 8 310部
雑印刷費	350	コピー代
会員事務管理費	30,000	パソコンリース料(@5,000×6ヶ月)
合計	324,704	

残高 5,664,475円 含古橋基金 1,884,697 . -